

## 「視聴解」を中心とした聴解授業の試み —教養としてのアカデミック・ジャパニーズ教育を目指して—

高橋圭子・東泉裕子

### 要旨

市民的教養としてのアカデミック・ジャパニーズ教育を目指す、聴解授業の試みを報告する。教養教育の要素の一つにマルチモダリティによる意味理解がある。本稿ではその一環として、「聞くこと」「見ること」の複合的理解を「視聴解」と名づけ、教材の例を具体的に挙げつつ、内容の広がりや理解の深まりの可能性について考察した。また、市販 DVD、テレビ番組の録画、ウェブ上の公開動画、というリソースについて、授業の現場での扱いやすさや著作権などの観点からそれぞれの長短を検討した。さらに、内容理解を深め多角的考察に発展するようなさまざまな「活動」も試みた。今後、ICT を活用した学習者主体型への教育のイノベーションにさらに取り組む必要がある。

### キーワード

アカデミック・ジャパニーズ、教養教育、マルチモダリティ、「視聴解」、活動

## 1. はじめに

「日本の大学での勉学に対応できる日本語力」は「アカデミック・ジャパニーズ (AJ) 」と呼ばれ、その教育についてさまざまな考察・議論・実践・報告がなされてきた (門倉他編 2006 など)。それらを踏まえ、門倉 (2020) は AJ の土台としての「教養」の重要性を強調し、「日本語教育は単なる言語教育ではなく、『教養教育』であらねばならない」と述べている。

学部以上の留学生を対象とした上級・超級レベルの AJ 教科書としては、書名に「一般教養」を含む山本 (2007) をはじめ、二通他 (2014)、東京外国語大学留学生日本語教育センター (2015)、野本他 (2016) などがあり、専門領域にとどまらない幅広い内容を盛り込んだものとして定評がある。また、書名に「リベラルアーツ」を含む石井他 (2016・2019) は、大学生・一般向けの書籍であるが、AJ の教科書としても使用されている。

本稿では、例として筆者らの担当する「聴解」の授業を「AJ の土台としての教養教育」の観点から検討し、その可能性や課題を考える。

## 2. 先行研究

### 2.1 「教養」とは

門倉 (2006) は、「AJ の土台」としての「教養」を「市民的教養」と呼び、「自由で民主的な社会の担い手として活動するために必要な知的『教養』と『コミュニケーション力』からなっている (p. 17) 」とする。「市民」とは「自由で民主的な社会を構成する主体 (p. 8) 」であり、「市民的教養」は「自分の関心事を現代社会の課題の一環に組み入れる力 (p. 8) 」の源である<sup>(1)</sup>。

また、石井他 (2006) は「教養」を、「みずからの内部に萌した曖昧な感情や素朴な疑問に的確な言葉を与え、自分以外の他者に向けて差し出す」という困難な作業を「可能にするだけの豊富な知識や経

験、そしてそれらに裏打ちされた高度な思考能力」であるとし、「大人になる」とはこのような教養を身につけた「教養人」になることであるとしている (p. iv)。そして、大学の教養教育においてしばしば用いられる「リベラルアーツ」という概念について、その本義は「自由人であるために必要とされる学問」であり、「本来、人間を種々の梗塞や強制から解き放って自由にするための知識や技能を意味する」(p. ix) としている。

もちろん、「教養」「一般教養」「市民的教養」「リベラルアーツ」といった概念は同義ではないが、本稿においては石井他 (2006) のいう「大人」「教養人」は門倉 (2006) などのいう「市民」と、門倉 (2006) などのいう「市民的教養」は石井他 (2006) のいう「教養」「リベラルアーツ」と、重なる部分は多いと考える。

## 2.2 「教養教育」とは

前節で確認したような「教養」は、単なる知識量ではなく、多種多様な情報や見解を収集し、分析して見極める力である。このような力を育むための教育について、先行研究にはさまざまな提言がなされており、中でも、メディア・リテラシー、クリティカル・シンキング、マルチモダリティなどが本稿に関連するものとして挙げられる。

メディア・リテラシーおよびクリティカル・シンキングの力の育成の重要性は、あらためて述べるまでもないだろう。ウェブ上や SNS などに膨大な玉石混交の情報があふれる現在、それを鵜呑みにせず信頼性を吟味し批判的に考察する力は現代社会を生き抜くために必要不可欠なものである (菅谷 2000、齋藤 2002、石田 2016、楠見他 2016 など)。このような力を育成する方法もまたさまざまに論じられているが、例えば門倉 (2018) は「多読」を分析する中で、「読むべき本、読むに値する本を見つけるための読み」「類書のみとめ読み・比較読み」といった「読むスキルの多様性」について、アカデミックな論文のためだけでなく、「複数の新聞やニュースソースを読み比べて事件や論点への理解を深め、自らの見解を形成するという、メディア・リテラシーの基本にも通じる『読み』の姿勢である」(pp. 9-10) と指摘している。

そして、現代社会におけるコミュニケーションは、音声言語、文字言語、図表、色彩、身振りなど多様な記号により構成され、視覚・聴覚など多様な感覚により意味理解がなされている。マルチモダリティとは、このような多様な表現様式 (モード) を表す概念である (クレス 2018)。門倉 (2011) は「見ること (viewing)」と読解が複合した意味理解のあり方が多い点に注目し、これを「視読解」と呼び、メディア・リテラシーの重要な教育領域であることを説いている。

## 3 「視聴解」を中心とした AJ 教育の試行とその検討

### 3.1 「視聴解」とは

以下では、ここまで見てきた「AJ の土台としての教養教育」という観点から筆者らの試行を検討する。

筆者らは現在、日本語教育の「聴解」におけるオーディオ・ビジュアル教材の活用について考えている。これをここでの文脈でとらえれば、「視聴解」の試みであると言える。「視聴解」とは「見ること」「聞くこと」の複合した意味理解のあり方であり、「視読解」(門倉 2011) に倣った本稿の造語である。「聞くこと」が単独で行われる場面には、空港や駅の案内放送、ラジオ、電話などがあるが、「聞くこと」と「見ること」が複合した場面はテレビ、ウェブサイト、映画、広告など、「聞くこと」単独よりはるかに多い。日常生活に満ちあふれたこれらのマルチモダリティによる意味理解は、メディ

ア・リテラシーの観点からも重要である<sup>(2)</sup>。

### 3.2 「視聴解」教材とその活用法

本節では、「視聴解」教材の活用の試みを具体的に紹介する。筆者らの担当授業は、東京都内のある大学における「日本語」科目の1つの「聴解」である。「日本語」は留学生の必修科目であり、1年次に「読解」「聴解」、2年次に「文章表現」「口頭表現」が、春・秋学期各1コマ設定されている。使用教科書は東京外国語大学留学生日本語教育センター(2015)であり、聴解用だが、キーワードやキーセンテンスをつかんだうえでの要約の練習も組み込まれている。「はじめに」で言及したように、AJの土台としての教養にふさわしい多様なトピックが扱われており、読解やディスカッションにも利用できる。

表1は、各課で活用可能な「視聴解」教材の例をまとめたものである<sup>(3)</sup>。【A】は市販DVD、【B】はテレビ番組の録画、【C】はウェブ上に公開されている動画である。

表1 聴解教科書と「視聴解」教材

教科書	「視聴解」教材
第1課 畳	【C】『明日への扉』「#093 畳職人 三宅克伺」(19分32秒) <a href="https://www.athome-tobira.jp/story/093-miyake-katsushi.html">https://www.athome-tobira.jp/story/093-miyake-katsushi.html</a>
第2課 天神様	【C】NHK『動画で見るニッポン』「太宰府天満宮 春の訪れを告げる天満宮の梅」(2分19秒) <a href="https://www.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500163_00000">https://www.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500163_00000</a>
第3課 暗闇イベント	【B】NHK『バリバラ』(各回30分)
第4課 知里幸恵さん	【B】NHK『その時歴史が動いた』「神々のうた 大地にふたたび～アイヌ少女 知里幸恵の闘い～」(43分)
第5課 開発途上国支援	【A】ペシャワール会「アフガニスタン用水路が運ぶ恵みと平和」(30分+35分)
第6課 バイオミクラー	【C】tetsuo asakura「絹による人工血管、再生医療材料の研究開発—東京農工大学工学府朝倉研究室」(13分26秒) <a href="https://www.youtube.com/watch?v=63d0TiqS3ao">https://www.youtube.com/watch?v=63d0TiqS3ao</a>
第7課 フェアトレード	【A】PARC「もっと！フェアトレード」(33分)
第8課 渋滞学	【C】三井ダイレクト損保 MUJICOLOGY!研究所「渋滞学」(全4回、各回2～5分) <a href="https://mujicology.mitsui-direct.co.jp/">https://mujicology.mitsui-direct.co.jp/</a>
第9課 バイオトイレ	【A】PARC「バイオ燃料 畑でつくるエネルギー」(31分)
第10課 人はなぜ化粧をするのか	【C】NHK『動画で見るニッポン』「舞妓 究極のおもてなし」(3分30秒) <a href="https://www.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990115_00000">https://www.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990115_00000</a>
第11課 茶の湯	【C】NHK『動画で見るニッポン』「裏千家 路地」(3分32秒) <a href="https://www.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990010_00000">https://www.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990010_00000</a>

第12課 ガラスの天井	【C】 FNN. jp プライムオンライン「ジェンダー・ギャップ指数」(4分58秒) <a href="https://www.youtube.com/watch?v=engiX9pHl5k">https://www.youtube.com/watch?v=engiX9pHl5k</a>
第13課 子どもの顔	【B】 NHK「赤ちゃんのヒミツ～驚くべき生命力～」(44分)
第14課 防災教育	【C】 NHK『動画で見るニッポン』「熊本県水俣市～『環境』への配慮が根付くまち～」(53秒) <a href="https://www2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004430098_00000">https://www2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004430098_00000</a>
第15課 丁寧語	【C】 文部科学省 mextchannel「敬語おもしろ相談室 6/7：文化庁」(4分36秒) <a href="https://www.youtube.com/watch?v=i8VsPpZ7_ZA">https://www.youtube.com/watch?v=i8VsPpZ7_ZA</a>

ここに挙げた「視聴解」教材の例は、教科書のテーマに即したのもあれば、緩やかなつながりのものもある。例えば、「第14課 防災教育」は、岩手県釜石市での防災教育が2011年の東日本大震災における津波からの避難に生かされた、という内容である。釜石は、二通他(2012, pp. 116-122)所収の玄田(2010)によれば、試練・挫折と新たな希望を繰り返してきたところであり、釜石の「希望」は熊本県水俣市の環境への配慮の取り組みとつながる、という。水俣病の名は、留学生もほとんどが知っている。であればこそなおさら、教科書の内容理解を水俣にまで広げる意義があると考えられる。また、「第3課 暗闇イベント」は視覚障害を扱っており、NHK Eテレの『バリバラ』は「『生きづらさを抱えるすべてのマイノリティー』にとっての“バリア”をなくす、みんなのためのバリアフリー・バラエティー」(<http://www6.nhk.or.jp/baribara/>)である。障害のみならず薬物依存や部落差別などタブー視されがちなトピックも正面から取り上げている番組であり、いずれの回の視聴も学生の考えの深化を促すことができると考える。「第4課 知里幸恵さん」についても、「視聴解」教材などを加えることで、アイヌのみならず沖縄や世界各地の先住民族、さらには自国や世界各地の民族問題について考える手がかりを提供することができる。

なお、表1に挙げた教材は、実際の授業で扱うのに無理のない、比較的短時間のものである。オーディオ・ビジュアル教材としては、窪田(2007)、平野(2014)など、映画を挙げるものも少なくない。映画は、社会の断面とそこに生きる人間の姿が凝縮して提示され、考える素材を豊富かつ多角的に提供してくれる。娯楽性もあり、説教臭や退屈さから免れることもできる。このように、映画はたしかに優れた面が多いが、時間の長さが問題点である。1コマ90分の中におさまるものはまれであり、日本語授業の中では扱いにくい。テレビドラマも同様である<sup>(4)</sup>。内容・時間ともに適切なものを見つけ出し教材化するのは、管見では教員の個人的な努力・労力に委ねられているのが実情のようである。よって、この状況に対する改善の試みも、本稿のねらいの一つである。

### 3.3 「視聴解」教材活用の問題点

「視聴解」教材を授業で利用する際の問題点として、(1)著作権、(2)アクセスの容易さ、(3)保存性などが挙げられる。(1)著作権について、著作権法第三十五条では、教育機関の授業における使用が目的である場合には著作物の複製(複写、印刷、録音、録画など)が認められている。また、同法第三十八条では、公表された著作物は、営利を目的とせず料金を取らない場合には公の上映が認められている。

ただし、これらはいくまで例外的条項であり、著作物の利用は著作権者の許諾と対価の支払いが原則であること、著作物の無許可での改変は著作人格権の重大な侵害にあたることなど、十分に留意が必要である。(2)アクセスの容易さは、教師および学生にとっての当該教材の入手・利用のしやすさをいう。(3)保存性とは、1回限りの視聴ではなく、繰り返し任意の時間に視聴できるような保存・保管が可能であるかをいう。学生の理解を促すための、語彙や表現の抽出、ワークシートの作成など、教員にとってこれは必須の性質である。

表1では「視聴解」教材の例を【A】～【C】の3種類に分けて示した。以下では【A】～【C】の種類ごとに(1)～(3)の項目における長短を検討していく。

まず、【A】市販DVDは、著作権処理を済ませたものが図書館などで購入できる<sup>(5)</sup>。このため、(1)著作権上の問題はない。また、(3)保存性も優れている。しかし、図書館での購入はリクエストから配架までに時間がかかる。また、1作品1枚のみであるため、同時に複数の学生が借り出すことはできず、反転授業の予習用には使えない。授業での一斉視聴のあとの、学生個々の復習も難しい。したがって、(2)アクセスの容易さは良くない。

次に、【B】テレビ番組の録画の利用は、授業における使用のための複製・上映であるため、(1)著作権上の問題はないだろう。テレビ番組には優れた内容のものも多く、録画も容易であるため、多種多様な「視聴解」教材が手軽に入手できる。しかし、いったん放送を逃すと再放送のない限り後日の録画は難しく、この点が【B】の最大の難点である。また、【A】と同様、【B】も授業での一斉視聴はできるが、予復習など個々の学生の能動的学習に用いるには限界がある。教育機関によっては、事前に依頼すれば担当部署に録画やその後の保管・貸出を行ってもらえる場合もあるが、教員の個人的録画による場合は学生との貸借は紛失などのトラブルも生じやすい。また、テレビ番組のインターネット配信<sup>(6)</sup>は、(1)著作権上の問題はなく、視聴可能期間であれば(2)アクセスも容易である。しかし、配信される番組や期間は限定されており、ダウンロードして保存することもできない。よって、総合的には、(2)アクセスの容易さおよび(3)保存性は良いとは言えない。

最後に、【C】ウェブ上に公開されている動画は、驚くほど多量・多彩・多様である。(2)アクセスの容易さも【A】～【C】の中で最も優れている。しかし、(1)著作権上、違法にアップロードされているものも少なくなく、そのようなコンテンツの利用もまた違法行為である。オフィシャル・サイトのコンテンツは(1)著作権上の問題はないが、テレビ番組のインターネット配信と同様、ダウンロードや保存はできないものが多い。また、合法・違法を問わず、ウェブ上のコンテンツは予告なく削除・変更されることが多い。よって、(3)保存性は【A】～【C】の中で最も問題がある。

表2は、以上のような現時点での検討をまとめたものである。この分野の変化・進展はめざましく、今後も情報を常に注視していく必要がある。

表2 「視聴解」教材の長短

	【A】市販DVD	【B】テレビ番組録画	【C】ウェブ上の動画
(1)著作権	○	○	△
(2)アクセスの容易さ	△	×	○
(3)保存性	○	△	×

○問題ない・良い △どちらとも言えない・ケースバイケースである ×悪い

### 3.4 AJ を踏まえた聴解授業における「活動」の試み

AJ は「視聴解」にとどまるものではない。実際の授業では、各課の内容理解を深め多様な角度から考察できるよう、教科書を用いた聴解練習や「視聴解」教材の内容理解に加え、ゲスト・スピーカーの招聘、教室外での課題、ショート・スピーチなどの「活動」も組み入れている。本節では、筆者らの担当授業における「活動」の試みを報告する。

2019年度は、「第5課 開発途上国支援」を扱った後、開発途上国支援を専門とする大学教員をゲスト講師としてクラスに招き、実際の取り組みについて話を聞いた。そして、支援を通して見えてきた課題や問題点を講師と話し合い、感想文を書くという活動につなげることができた。「第7課 フェアトレード」を扱った後は、実際にフェアトレード・ラベルのついた品を見つけてくる、という宿題を課した。インターネットでフェアトレード・ショップを検索してそこに足を運んでみてほしい、というねらいをこめた課題だったが、学生たちは自分の住まいや大学の近くのスーパー、コンビニエンス・ストアなどを捜し回り、これを見つけるまでに何軒も回った、と楽しそうに話してくれた。店員に尋ねたところフェアトレード・ラベルとは何かと逆に聞かれ、説明したと得意げに報告する者もいた。また、「第9課 バイオトイレ」から話題を広げ、環境問題の基礎知識を学ぶという活動に発展させることができた。新聞社から取り寄せた環境教育の教材<sup>7)</sup>を受講生に配り、「3R」「レアメタル」「食品ロス」などのキーワードに関連する記事を分担して読むことを宿題にした。そして、翌週には、担当のキーワードを解説し、関連記事の感想、補足情報、自分および地域社会における取り組みなどについて発表するという活動を行った。

これらの活動は、門倉 (2020) が AJ 教育の要素の一つとして挙げている「『主体的・対話的で深い学び』へと触発する『ことばの教育』」につながっていくものと考えられる。もちろん、それは容易に成し遂げられるものではない。「差別はいけない」「環境を守ろう」という一見模範的な感想で終わるのではなく、他人事ではない自身のこととして問題を引き受け、かつ個人的主観を排し意見を組み立てる力をつけるのは容易ではない。例えば、少数民族への優遇政策 (affirmative action) や女性専用車両などを「逆差別」と感情的にとらえる学生は少なくない。その一方、「小学生の頃、少数民族のクラスメートを皆でいじめました。ごめんなさい」と書いてきた学生もいる。教師と学生、学生どうしの対話を丁寧に積み重ね、市民的教養を担う「コミュニケーション力」を育てていくことが重要であると考えられる。

## 4. まとめと課題

本稿では、「AJ の土台としての教養教育」の観点から、筆者らの聴解授業における「視聴解」を中心とする試行を検討した。「視聴解」教材は多量・多様・多彩であり、授業で有効に活用できればその利点の潜在可能性ははかりしれない。本稿での整理・検討を足掛かりとして、教員間の情報共有や議論の進展に貢献できれば、と考える。

残された課題は多いが、その最大のものの1つに、教員主導型から学習者主体型への転換が挙げられる。「視聴解」教材の受信にとどまらない発信への試行は、デジタル・ネイティブである学習者たちには教員の想像よりはるかに容易であるかもしれない。クローロス (2019) には、YouTube などを利用した学習者主体の教育のイノベーションの例が豊富に紹介されている。本稿で取り上げた以外にも、インターネット上にはさまざまな潜在的資源があり<sup>8)</sup>、それらについての情報・知識・活用術を学習者とともに学んでいく必要があるだろう。このような活動を通してこそ、学習者たちに主体的に社会と関わり生きていく「市民」としての姿勢を育むことができるのではないかと考える。

## 注

1. 近代民主主義を生んだ市民革命の「市民」とは、地縁や血縁、会社などの組織にとらわれない自分の見識を持ち、自分が市民であるという自覚(市民意識)をもって政治など社会の公(パブリック)の問題にかかわる人々、進んで新聞や雑誌を読んで情報を集め、公の問題に対して自分の意見を持つ人々であった(長谷川 2016、p. 93)。
2. 視覚・聴覚による教育としては「視聴覚教育」が長い歴史と伝統を持つが、ICT の発展にともない「情報教育」との異同が議論されてもいる。「視聴覚教育」「情報教育」と本稿の「視聴解」教育との関連については、今後の考察課題である。
3. 表 1 の「視聴解」教材は例であり、実際の授業では時間などの制約もあるため全てを扱っているわけではない。なお、ペシヤワール会およびPARC (Pacific Asia Resource Center アジア太平洋資料センター) は、非営利の国際協力 NGO (Non-Governmental Organization 非政府組織) である。
4. 日本テレビ「ダンダリン 労働基準監督官」(2013 年放映)、フジテレビ「民衆の敵～世の中、おかしくないですか!～」(2017 年)、関西テレビ・フジテレビ「健康で文化的な最低限度の生活」(2018 年) はそれぞれ、キャリア教育、主権者教育、生存権教育として優れた連続ドラマであり、娯楽性も十分である。これらは 2020 年 5 月現在、ネット配信や市販 DVD など視聴可能だが、映画と同様、時間の長さが問題点である。
5. 「カルチャーライフオンラインショップ」のように幅広いジャンルの優れた DVD を多数販売しているサイトもある。
6. テレビ番組のインターネット配信には NHK オンデマンド(有料)、NHK プラス(無料)、TVer(無料)、Hulu(有料)、AbemaTV(有料) などがある。
7. 朝日新聞『地球教室 基礎編』『地球教室 応用・研究編』を利用した。
8. 例えば、ニュース・サイトとして、NHK「News Web Easy」、VIDEO NEWS などがある。

## 謝辞

本稿は、東洋大学人間科学総合研究所の若手研究者研究支援「アカデミック・ジャパニーズの探究と教材開発～リベラルアーツとマルチモダリティを中心に～」の研究成果の一部である。また、著作権については、安藤和宏氏(東洋大学法学部)のご教示を得た。記して感謝申し上げます。

## 参考文献

- 石井洋二郎・藤垣裕子(2016)『大人になるためのリベラルアーツ: 思考演習 12 題』東京大学出版会
- 石井洋二郎・藤垣裕子(2019)『続・大人になるためのリベラルアーツ: 思考演習 12 題』東京大学出版会
- 石田英敬(2016)『大人のためのメディア論講義』ちくま新書
- 門倉正美(2006)「〈学びとコミュニケーション〉の日本語力」門倉正美・筒井洋一・三宅和子編『アカデミック・ジャパニーズの挑戦』ひつじ書房, 3-20.
- 門倉正美(2011)「〈コミュニケーションをく見る〉: 言語教育におけるビューイングと視読解」『早稲田日本語教育学』9, 115-120. <[https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=24992](https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=24992)> (2020 年 2 月 23 日閲覧)

- 門倉正美 (2018) 「リーディング・ワークショップで多読する:アカデミック・ジャパニーズにおける多読のすすめ」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』10, 1-17. <<http://academicjapanese.jp/dl/ajj/ajj10.1-17.pdf>> (2020年2月23日閲覧)
- 門倉正美 (2020) 「これからのアカデミック・ジャパニーズ」第50回アカデミックジャパニーズ・グループ定例研究会15周年記念講演<[http://www.academicjapanese.jp/newsCMS/dl/file\\_20200217165830.pdf](http://www.academicjapanese.jp/newsCMS/dl/file_20200217165830.pdf)> (2020年2月23日閲覧)
- 門倉正美・筒井洋一・三宅和子編 (2006) 『アカデミック・ジャパニーズの挑戦』ひつじ書房
- 楠見孝・道田泰司編 (2016) 『批判的思考と市民リテラシー:教育、メディア、社会を変える 21世紀型スキル』誠信書房
- 窪田守弘編 (2007) 『映画で日本文化を学ぶ人のために』世界思想社
- クローロス, ジョージ・白鳥信義 (訳)・吉田新一郎 (訳) (2019) 『教育のプロがすすめるイノベーション:学校の学びが変わる』新評論 [COUROS, George(2015) *The Innovator's Mindset: Empower Learning, Unleash Talent, and Lead a Culture of Creativity*, Dave Burgess Consulting, Inc.]
- クレス, ギュンター R.・松山雅子 (監訳) (2018) 『マルチモダリティ:今日のコミュニケーションにせまる社会記号論の試み』溪水社 [KRESS, G. R.(2010) *Multimodality: A social semiotic approach to contemporary communication*, Routledge.]
- 玄田有史 (2010) 『希望のつくり方』岩波新書
- 齋藤俊則 (2002) 『情報がひらく新しい世界9 メディア・リテラシー』共立出版株式会社
- 菅谷明子 (2000) 『メディア・リテラシー:世界の現場から』岩波新書
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 (2015) 『留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解 上級』スリーエーネットワーク
- 二通信子・門倉正美・佐藤広子 (2014) 『日本語力をつける文章読本:知的探検の新書 30冊』東京大学出版会
- 野本京子・坂本恵・東京外国語大学国際日本研究センター編 (2016) 『日本をたどりなおす 29の方法:国際日本研究入門』東京外国語大学出版会
- 長谷川權 (2016) 『文学部で読む日本国憲法』ちくまプリマー新書
- 平野共余子 (2014) 『日本の映画史:10のテーマ』くろしお出版
- 山本富美子編著 (2007) 『留学生・日本人のための一般教養書 国境を越えて [本文編] 改訂版』新曜社

## 関連 URL

- 朝日新聞「地球教室」<<http://www.asahi.com/ad/clients/chikyuu/>> (2020年7月22日閲覧)
- カルチャーライフオンラインショップ <[http://www.ap-t.co.jp/Top.html?BODY=top\\_main.html](http://www.ap-t.co.jp/Top.html?BODY=top_main.html)> (2020年2月26日閲覧)
- 日本視聴覚教育協会 <<http://www.javea.or.jp>> (2020年4月25日閲覧)
- 著作権法 <[https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws\\_search/lsg0500/detail?lawId=345AC000000048](https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=345AC000000048)> (2020年2月26日閲覧)
- 文化庁 著作権 <<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/index.html>> (2020年2月26日閲覧)
- ペシャワール会 <<http://www.peshawar-pms.com/index.html>> (2020年2月26日閲覧)

Abema TV <<https://abema.tv/>> (2020年5月16日閲覧)

Hulu <<https://www.hulu.jp/>> (2020年5月16日閲覧)

NHK オンデマンド <<https://www.nhk-ondemand.jp/>> (2020年2月26日閲覧)

NHK バリバラ <<http://www6.nhk.or.jp/baribara/>> (2020年2月26日閲覧)

NHK プラス <<https://plus.nhk.jp/info/>> (2020年2月26日閲覧)

NHK 「News Web Easy」 <<https://www3.nhk.or.jp/news/easy/>> (2020年5月16日閲覧)

NPO 法人アジア太平洋資料センター <<http://www.parc-jp.org/video/index.html>> (2020年2月26日閲覧)

TVer <<https://tver.jp/info/faq.html>> (2020年2月26日閲覧)

VIDEO NEWS <<http://videonews.com/>> (2020年5月16日閲覧)